

5月  
& 6月

東北・福島+埼玉=福の玉 が生まれ、ゆっくりふくらんでいきますように...

# 福玉便り

ふ く た ま だ よ り

通巻 114 号

発行：『福玉便り』編集委員会 NPO 法人埼玉広域避難者支援センター・(一社) 埼玉県労働者福祉協議会

協力：生活協同組合コープみらい埼玉県本部

連絡先：NPO 法人埼玉広域避難者支援センター 〒330-0061 埼玉県さいたま市浦和区常盤 6-4-2 1ときわ会館 1F TEL0120-60-7722

## 東日本大震災追悼式黙祷の会

今年の3月11日、上尾シラ

コバト団地集会所にて東日本大震災追悼式(黙祷の会)を営みました。コロナ禍の間、

2020年から昨年まで、上尾市・龍山院にて開催していま

したが、今年は偏西風の蛇行により、寒波が予想されるとの事で、三密を避けていた5年間

とは逆に、室内での開催にしました。そのため、団地内・そ

うさん公園での開催も見送り、最初から集会所と決めていま

した。その際、自治会からは参列者の名簿提出を依頼され、

当会としては受付に消毒液とマスクを用意して、細心の注意を

払った開催となりました。式は福島県復興支援員・富

永まゆみさんの司会により開会。つなげよう花の心実行委員会の

榎本理鶴さんの挨拶、式に寄せられたメッセージの紹介、そして

14時46分、東北の方向に向かつて黙祷。式としてはとても簡素

なものとなりましたが、会としてはなくてはならない式でした。

それと言うのも、5年前の追悼式では、今回の司会を担当した、富永まゆみさんに依

頼していました。コロナ禍により、式の開催が危ぶまれたため、

中止も視野に入れていたため、自分が司会を代行しました。

同じく5年前、第二部では双葉町からシラコバト団地に避難

している池田さんが作った里芋を団地の仲間が調理して振る

舞う準備をしていましたが、保健所に相談した際、『調理の際、

ウイルスが入ったらどうするんですか!』と怒りと恐怖の入り

混じった声で言われ、第二部の飲食も断念していました。今

年も調理は見送りでしたが、式の終わりに池田農園で採れた

野菜を配りました。今回の式で、司会の富永さんの

快諾、池田農園の豊作により、5年前の課題を克服出来

たと感じています。『幾多の困難を乗り越えて毎年、式を開

催している会の活動を見ています。』と言う方のお言葉に込め

る事の出来た式だったので、はいかと思っています。

最後に、開催に関してご協力して下さった多くの方々、14時

46分に鐘を撞いて下さった龍山院任職、参列下さった皆様に感謝しています。有り難うござい

ます。東日本大震災に咲く会 ひまわり 橘 光顕

今年には福玉編集部を代表して薄井が参列しました。実に10年

以上ぶりでした。この間、11日は別の場所で黙祷の時を過ごして

いましたが、毎年紙面で確認して

していましたので、最初は例年の集いという気持ちで座っていました。

でも、橘さんの挨拶等を聴いて、5年ぶりの課題、困難を

克服したという言葉が感慨深く、その場にいることの意味を考え

ました。会が終了した後、片づけを手

伝いながら数名の方々にお声掛けし、お話を伺いました。

橘さんたちが団地に移住された際の民生委員であった宮下登

志江さんからは、特に印象深いエピソードを振り返ってもらいま

した。橘さんたちが家具一式を持たないでおられたことを知り、

団地の方々に呼びかけたところ、タオルや衣服、家電製品まで瞬

く間に集まったそうです。近隣に避難されてきた方々に自分た

ちにできることは何か、と皆さんがやむにやまれぬ思いだったの

でしょう。団地住民だった私たちも、自分の中のそうした気持

ちを具体的に行動につなげることを学んだように感じています。

こうして共に黙祷する時を持つことで、2011年の震災と原発

事故は過去のことではないという思いを自分たちも持ち続けられて

いることに感謝したい思いです、と話されました。追悼式は、

人と人が出会いによって得て、それぞれが育んできたものによつて

成り立っていることを深く感じた言葉でした。

橘さんは挨拶の中で、防災対策や避難時の対応などに関する

講演を今後行う意向を示されました。能登半島の復旧・復興は

依然として十分に進んでおらず、追悼式当日は大船渡の山林火災

がまだ鎮火していない状況でした。自然災害が発生しやすい国

土に多くの原発。今回、式に参列し、避難の経験や出会いと交

流から得た知見は、もつと広くもつと多くの人々に伝えねば、と

確信して帰宅の途につきました。(編集部 薄井)



## 福島の風景画に思いを込めて

## ——オオハシワタルさん

画家であり、福島市から避難をしているオオハシワタルさんは、福島市での懐かしい風景画をInstagramに投稿しています。「絵を見た人が、コメントで福島を応援してくれるのが嬉しい」と言います。絵の美しさに感動する人だけでなく、「懐かしい」「私も東北出身です」「震災や原発事故の影響は本当に大変でしたね」「私も熊本地震を経験しました」あるいは宮城県の方が「福島頑張ってください」などと応援のコメントを寄せてくれます。

オオハシさんが埼玉に避難したのは2015年のこと。原



福島市平石にある神社の桜

発事故後、福島市の自宅周辺の放射線量は除染をしても下がりませんでした。2人の息子たちはマスクをつけて登校し、校庭でも2時間しか遊べない生活。公園でも遊べず、生徒同士もそういったストレスからギクシャクしはじめ、息子の一人が不登校になってしまったと言います。

原発事故直後から、「避難をしたい」と思いながらも、仕事もあるうえ、母親は認知症を患っていました。施設を見学に行っても「家に居たい」「福島に居たい」と拒み続ける母。

オオハシさんは「妻と子どもたちを守るために移住すべきか、母のために残るべきか悩み続けた」と胸の内を明かします。当時は、「放射能との戦い、母の認知症、子どもの不登校、そんな状態が3年半続き、私の精神も疲れ果てていた」そうです。母子避難も考えましたが、ちょうど思春期の息子二人を妻だけに託すことも難しい状況でした。

2015年、母親は認知症ながらもオオハシさんの気持ちはわかったのか、一人施設に

入ることを決めてくれました。そして、妻、子どもたちと4人で埼玉に避難。オオハシさんは今でも、母親に「申し訳ない」という思いを抱いているそうです。

避難してから、就職には1年ほどかかりました。ようやく得た仕事でしたが、職場の環境は悪く、若い女性職員が泣き出すことがあるほど、緊張を強いられる職場でした。顧客からも怒鳴られることがあり、電話口で「今からお前に会いに行くからな」と脅されることも。そういったことが毎日続き、精神的に追い詰められてしまい、やむなく退職しました。

今は、子どもたちも成長し、家族で支え合いなんとか生活をとり戻しつつあります。息子たちも成長して自立し、「今は頑張つてやってきています」とオオハシさん。でも、ホッとすると一方、不安もあると言います。「きつと、まだ心の傷がある」。成人式も行かず、幼馴染がいなくなってしまう子どもたちを案じています。

2015年に避難をしてきたとき、川越の交流会で出会った避難者の方々は、みんながあなたかくて救われたと言

ます。「みんな、頑張つてくれていたんだな」と思いました」とオオハシさん。

それでも、ふとしたときに「帰れるものなら帰りたい」「戻りたい」と感じるそうです。原発事故さえなければ、オオハシさんも家族も、これまで通り暮らせていたはずでした。

オオハシさんは、今の福島がものすごいスピードで変化していくことに寂しさがあると話します。大きな病院はすべて建て替えられ、吾妻山には風力発電の風車が立ち並び、太陽光パネルも増えました。

「強いものにはお金がばら撒かれ、弱いものはバカを見るという結果になってしまったのではないか」とオオハシさん。

早稲田大学の辻内琢也さんが語る「社会的虐待」は「まさにそう」と痛感するそうです。さまざまなことを我慢し続け、避難してから10年。精神的にも落ち込んでしまい、今もまだ回復していません。読者の方にもいらつしやると思いますが、たとえ暮らしが回復しても、心の回復には時間がかかります。オオハシさんも福島での暮らしを思い出すたびに「押しつぶされそうになる」と言います。

子どもの頃から、絵描きになりたかったオオハシさんですが、親に反対され、大学では建築科に進みました。美術部に入り、就職してからも二足の草鞋で絵を描き続けていました。Instagramを見ると、かつては人物画が多かったのですが、今年の3月11日以降は、福島風景画が並んでいます。「もう一度、福島」の気持ちをこめて描いていると話してくれました。

オオハシさんは、今号から福島風景画を投稿してください。ぜひ、楽しみにしてください。

オオハシさんからのコメント「坂本龍一さんが、『今の時代は、自分のために生きる時代じゃない。人のために生きる時代だよ』とお話されていたことが心に残っています。福玉便りを読んでいるみなさんも、私と同じように苦しい気持ちの人がいると思います。絵が少しでも癒しになったら、私も助かりますし、嬉しいです。まだ、会える状況ではないけれど、応援しています」

吉田 (編集部)





### 福玉支援センター活動報告

## 第23回 With You さいたま(埼玉県男女共同参画推進センター)フェスティバルに参加しました!

2025年2月1日(土)～2日(日)

毎年恒例の展示企画では、『福玉便り』や各地の支援団体情報紙を展示し、14年経った現在の状況の紹介に努めました。また、加須市で開催してきた双葉町主催の手芸教室での作品をチャリティ販売しました。今年は小袋、ペットボトルケース、コースターに加え、帽子やニットベストも人気でした。

午後のワークショップでは、一般社団法人石川県災害ボラ

ンティア協会の木下千鶴さんによる講演会『能登半島地震の避難者支援～能登半島地震における被災地の状況と日常の備え』を実施しました。木下さんは、東日本大震災と原発事故で北陸地方に避難された方々の支援活動を行い、能登半島地震以降は輪島市を中心に生活支援に取り組んでおられます。自宅を命を守るための備えの重要性や、避難所でのトイレ対策など、体験に

基づいた話に参加者はすつかり聞き入っていました。また、輪島市の状況、仮設住宅での交流活動の様子も紹介していただき、その活動の一端として作成されたミサングアを見せられました。ミサングにはすべて作り手さんのメッセージがついており、どのような方なのかと想像しながら楽しく選びました。このミサングは展示の方でも販売し、最後に手芸品の売り上げと共に木下さんにお渡しすることができました。

輪島で始まった仮設住宅でのミサング作りを知って、10年以上細々と続けてきた双葉町手芸教室のこれまでが蘇ってきました。いろいろあるけど、ひとまず定期的に顔を合

わせて、机を囲んで手を動かしながら、口も動かしながら過ごす時間。私自身にとっても大切な時間でした。手芸教室はこの3月で終了しましたが、皆さんの営みが木下さんを介して輪島の皆さんへと伝わっていくような、そんなつながりの感覚を抱きました。双葉町手芸教室の皆さん、長い間ありがとうございました。

後日、木下さんから仮設の皆さんのバス旅行の報告と笑

顔一杯の集合写真が届きました。こうした交流を続けていきた。少しはお役に立てたように、いと考えています。(編集部・薄井)

With You さいたまフェスティバルに参加して

(特非)埼玉広域避難者支援センター様からお声掛け頂き、石川県から参加させていただきました。能登半島地震から1年が過ぎ北陸以外の地域では報道も少なくなっています。昨年9月豪雨で被災地はほとんど1年前と変わっていません。むしろ災害関連死が増えつつあります。県外に発信することの大切さは理解しておりますが、私の活動としては能登の支援で手一杯の状態。自身の術が使えたらと思っております。そんな中素晴らしい会場で、能登半島地震の状況を皆さんにお話しする機会を設けていただいたことに感謝しております。ありがとうございます。埼玉県の皆さまには、能登半島地震の復旧、復興の様子にアンテナを張っていただきエールを送ってくださいますよう、衷心よりお願い申し上げます。

追伸

福玉便りなので福島の情報も少しお伝えします。

○3・11直後から金沢市に避難されていたご夫婦…この度13年住んでいたお家から、介護付き有料老人ホームに入居されました。住民票も金沢に移動されました。引っ越しの際には、能登で必要な方にと毛布やエプロン、タオルなどを提供いただきました。お二人ともお元気にされています。

○20歳女性…現在名古屋市内で仕事をしています。富山県に避難していましたが、家族内の関係が芳しくなく4年前から一人での生活が続いています。彼女が中学生の時からのお付き合いです。付かず離れずの関係が続いています。

あとの北陸の方は平穏そうです。相談電話は0 近況報告も少なくなりました。

(一般社団法人石川県災害ボランティア協会 木下千鶴)

## 各地の 交流会など

新型コロナウイルスの感染拡大により、交流会の流動的な状況が続いておりました。各交流会の感染対策については連絡先にお問い合わせください。なお、各交流会に参加される方は、引き続き体温測定の上でご参加いただき、参加中は消毒や換気にご協力ください。

①	加須市	双葉町民によるボランティア カフェ	090-5356-8778 (鵜沼さん)
⑤	加須市	すくすくのおそびひろば	090-2411-8598 (戸恒さん)
⑥	加須市	オバトン	090-6526-8560 (藤井さん)
⑧	上尾市	東日本大震災に咲く会ひまわり	080-3091-6215 (橘さん)
⑩	熊谷市	くまがや結の会	090-7661-9236(林崎さん)
⑯	越谷市	あゆみの会	090-9425-2001 (石上さん)
⑱	川口市	ひまわりの会	080-5431-0123 (島田さん)
⑲	さいたま市	さいがい・つながりカフェ	080-5532-7380 tunagari.saitama@gmail.com
⑳	ふじみ野市	おあがんなんしょ交流会	090-5345-8408 (松館さん)
㉘	川越市	ここカフェ@川越	070-5080-4494 (鈴木さん)
㉚	さいたま市	玉兎の会	090-6128-1948 (小林さん) https://gyokutonokai.wixsite.com/2018

### ⑥オバトン

双葉の皆さんが声をかけ合い、新しく参加されたり(男性の方が3人)、また久々に参加された方もおります。これからはがきや電話で開催のお知らせをしますが、読者の皆さんお待ちしています。5/13(火)、5/22(木)、6/10(火)、6/26(木) 10:00～14:00 キャススルきさい 090-6526-8560 (藤井さん)

### ⑲さいがい・つながりカフェ

5/8(木)、5/22(木)、6/12(木)、6/26(木)、11:00～15:00 WithYou さいたま和室 080-5532-7380、tunagari.saitama@gmail.com

### ㉘ここカフェ@川越

皆様のご予定を調整しながら毎月交流会を行っています。場所はJUNホール、10時～です。pororon311@gmail.com、070-5080-4494 (鈴木さん)



(おあがんなんしょ交流会 松館千枝)

皆さんからいただいた感想文です。「昨日は久しぶりに沢山歩き、今朝は疲れが少し残っています。皆さんは如何ですか? でも楽しい一日でした。」「お花見会、久し振りに皆さんにお逢い出来て楽しかったです。」「今日は楽しい日を誘って頂き、皆さんとお話出来たこと嬉しかったです。スマホを観たら1万歩になっていました。」「ちようど良い天候の中で皆さんと楽しんで最高でした。」

3月27日、沢山のお花見が出来た森林公園内を9名でワイワイガヤガヤお喋りしながら歩きました。「ホーホケキョ」としっかりと鳴き声の鶯、「左の耳から聞くと 幸せになるのよ」の声に全員が立ち止まり左方向から聞きました。これで皆さん幸せ・・・可憐な山すみれ、こぶし、山桜に感嘆の声をあげながら、沢山の種類の「椿」の前でパチリ。山野草を見つけた感激のひと時でした。

春を探しに……  
おあがんなんしょ交流会

眠れない日が続いているとき 気にかかることがあるとき 困っていることがあるとき  
理由ははっきりしないけれど、誰かに話を聞いてもらいたいとき  
いつでも気軽にお電話ください。

福玉相談センター 電話：0120-60-7722 (フリーダイヤル)

火曜日・水曜日・木曜日(9:30～16:30) 電話で相談しづらい方はメールでもどうぞ。

メール：fukushima\_soudan@yahoo.co.jp

